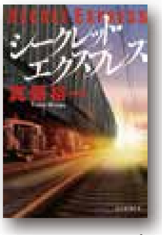
あたらしくはいった本（令和3年8月 貸出開始資料から）

●小説　シークレット・エクスプレス（真保裕一／著）　存在しない時間の中で（山田宗樹／著）　暮鐘（今野敏／著）　夜ごとの才女（赤川次郎／著）　噂を売る男（梶よう子／著）　兇人邸の殺人（今村昌弘／著）　たまごの旅人（近藤史恵／著）　ブランド（吉田修一／著）　巨鳥の影（長岡弘樹／著）　星のように離れて雨のように散った（島本理生／著）　霧をはらう（雫井脩介／著）　能面検事の奮迅（中山七里／著）　身内のよんどころない事情により（ペーター・テリン／著）

●随筆・詩などの文学　九十八歳。戦いやまず日は暮れず（佐藤愛子／著）　うそをつく子（トリイ・ヘイデン／著）　もう一度読みたい日本の古典文学（三宅晶子／編）　ごきげんな散歩道（森沢明夫／著）

●その他の本　コロナ貧困（藤田孝典／著）　クジラの骨と僕らの未来（中村玄／著）　プラモはじめます！（香坂きの／著）　農家が教えるタネ採り・タネ交換（農文協／編）　60からは喜びはかけ算悲しみは割り算（沖幸子／著）　魔法のクローゼット（くぼしまりお／著）



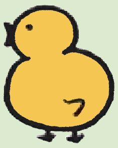
『シークレット・エクスプレス』
真保裕一
毎日新聞出版

『存在しない時間の中で』
山田宗樹
角川春樹事務所

『九十八歳。戦いやまず日は暮れず』
佐藤愛子
小学館

●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、来館の際はマスク着用などのご協力をお願いします。

みんなのとしょかん



市民図書館
TEL（921）4646（ヨムヨム）
FAX（921）4896
http://www.library.dazaifu.fukuoka.jp/

としょかんカレンダー

令和3年10月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	○4	5	6	7	8	9
10	○11	12	13	14	15	16
17	○18	19	20	21	22	23
24/31	○25	26	○27	28	29	30

○のついた日は休館日

金・土曜日（祝日を除く）は午後7時まで開館しています。

満盛院（まんじょういん）領をめぐるトラブル

太宰府の文華 ～公文書館だより90～

戦国時代も半ばに近い大永6（1526）年、太宰府天満宮の社家の一つ満盛院の院主快真は、筑前国守護の大内義興にある訴えを起こしています。それは、満盛院の領地の早良郡戸栗・重富（現福岡市早良区～西区）のうち80町を返してほしい、というものでした。実は大内氏は、この地を一時的に満盛院から借り上げ、千葉胤勝という人物に渡していました。この訴えを受けて大内氏は、いずれ返還する意向を示しつつ、当面は代わりに鞍手郡赤馬庄（現在の宗像市）から徴収した段銭（田地一段別に賦課する税）のうち百貫文を快真に渡すよう指示しています。

この千葉胤勝という人は、隣国の肥前国の小城（現在の佐賀県小城市）に本拠を置いていた有力な領主です。この時は小城を追われて筑前に亡命し、大内氏の庇護を受けていました。大内氏と少弐氏の対立の中で大内方に付いていた胤勝は、少弐方の軍勢と戦って敗れたのだと思われます。そして亡命生活の費用を賄うために義興から領地を与えられたのです。

それから4年後の享禄3（1530）年、快真は再び大内氏に訴えています。この時にはもう胤勝は肥前に復帰していたので、戸栗・重富の領地を返してくれるよう要求しました。ところが大内氏（これ以前に義興から義隆に代替わり）は、すでに別の人に与えてしまったので、これまで通り鞍手郡の段銭百貫文を与えると返答しています。

ところで快真の一回目の訴えによると、大内氏は永正年中（1504－21）にも宗大和守という人に同じ地を与えたことがあり、これを先代院主の快竹が訴えたところ、この時も代わりとして鞍手郡のうち段銭百貫文が与えられることになったそうです。

このように、大内氏はたびたび満盛院の領地である戸栗・重富の地を借り上げて他の人に与え、満盛院はそのつど困って大内氏に返還を求めていました。大内氏は戦乱によって他国から逃れてきた味方の人々を、受け入れて扶養していたようですが、その分だけ満盛院のように損をする人々もいたことが分かります。

太宰府市公文書館　大塚　俊司